

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野		重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価	学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
						達成状況、改善策	評価	意見・理由	
学校運営	学校運営	【学部・研究科等と連携、実践的な実習・研修の場の提供、全国・地域における先導的な教育モデルの開発、成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】		①中等教育に係る研究組織体として、研究組織と校務分掌組織との連携性を確認、強化。 ②学校が目指す教育ビジョンの共有。 ③学校経費の節約と戦略的な執行。	①②ビジョンを共有し学校運営を円滑にするため、運営委員会、分掌会議、教科会議、学年会議を学期中にはそれぞれ週1回開催する。 ③GIGAスクール事業に対応した教育環境改善を図るため、学長裁量経費等へ応募し、予算を獲得する。	①②中等教育に係る研究組織体として各分掌、学年、教科において週1回会議を開催し、教育ビジョンの共有と研究組織と校務分掌組織との連携した取り組みを行った。 ③学長裁量経費を獲得し、ICT機器環境整備による生徒の学びを支援、大学との協働で整備をすすめている高大連携・接続システムの構築、先導的な科学教育カリキュラムの開発をすすめている。	A	①② SSHの取り組みを中心として教職員の意識が高まっており、学校全体で教育ビジョンの共有ができています。③高大連携・接続システムは、生徒が学びの専攻を選択する視野を豊かに広げていくうえで非常に有意義なものである。大学と協働した高大接続プログラムがすすめられている。	A
	人事	【学部・研究科等と連携、実践的な実習・研修の場の提供、全国・地域における先導的な教育モデルの開発、成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】		①公立学校との人事交流を行い教師教育の拠点形成。 ②教員研修プログラムを策定して教員研修の機能を高めるとともに外部研修への参加を促進し、教員の職能成長を推進。	①公立学校からの派遣教員へのアンケートにおいて、派遣の成果に関して50%以上の肯定的評価を得る。 ②外部研修への参加を推進し、教職員支援機構の研修を1名以上、広島県教育委員会の研修を2名以上受講させる。	①広島県および、他県から人事交流により教員を受け入れ、キャリアステージごとの資質能力をもとに研修プログラムを実施した。1名は大学院で内地研修員として学び、教員としての資質能力を向上させた。派遣教員へのアンケートは3月末実施予定。②教職員等中央研修を1名が受講、広島県教育委員会の研修は2名が受講しドリリーダーの育成を図った。他校の教育研究大会への積極的な参加を促進し、教員の職能成長を推進した。	B	①②学校運営の現状を踏まえて教員研修プログラムの策定と推進を行い、人材育成がなされている。教員数の十分な確保、安定した人事により、教育水準の向上を目指した取り組みに期待する。部活指導員の確保等により、先生の仕事の軽減を進めることが望まれる。	B
	広報	【学部・研究科等と連携、実践的な実習・研修の場の提供、全国・地域における先導的な教育モデルの開発、成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】		①ホームページの効果的な活用、教育研究大会の開催、刊行物の発行等を通じて、先進的、先駆的な研究推進校としての教育・研究活動を広く発信、提供。 ②入学希望者のための学校広報活動。	①教育研究大会(11月)、SSH成果発表会(2月)の開催、研究成果や研究紀要等刊行物をホームページに掲載し、年間20万回程度のアクセスを得る。 ②学校説明会、学校案内を創意工夫して入学希望者へ情報提供し、少子化の時代にあっても入学希望者数を現状維持、下回っても5%以内に留める。	①SSHの実践をはじめとして、授業実践事例集を学校Webページで公開し、学校Webサイトへのアクセス数は1年間で延べ59万回を上回っており、学校の取り組みの成果が受け止められている。 ②高等学校の学校説明会は6月に対面で開催した。中学校の学校説明会は感染対策のため開催できなかったが、学校生活の様子等を動画にしてホームページで紹介するなど広報資料を充実させた。中学校の志願者数は昨年比3.5%減に留まった。高等学校の志願者数は昨年比28%増であった。	A	①教育実践の成果、刊行物を学校Webページに公開し、広報活動が充実している。アクセス数からも注目度が高く、評価が高いことがわかる。②学校説明会の開催方法について、対面での開催は必要であるが、オンラインを用いた工夫によりできる限り行われている。動画を取り入れるなど臨場感や体験感をもたらす新たな学校紹介の在り方の模索を期待する。	A
	PTA等の諸組織との連携	【全国あるいは地域における先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】		①PTAとの緊密な連携による教育環境の充実。 ②教育後援会との緊密な連携、教育環境充実に関する協議と予算執行。	①保護者と学校で協力して研修会を少なくとも年1回開催、PTA広報紙を年3回発行。年度末の保護者アンケートにおいて、「SSHの取り組み」「学校の楽しさ」等に関して肯定的回答80%以上を得る。 ②教育環境の充実に資する予算執行を進めるため、教育後援会役員会を年4回開催する。	①全国国立大学附属学校園PTA連合会研修会(9月)は、保護者、教員が各家庭からオンラインで参加した。中附P連山口大会(11月)では、PTA役員が参集して講演会の視聴と保護者によるグループディスカッションを行い情報交換と研修を行った。PTA広報紙は3回発行した。保護者アンケートは、「SSHの取り組み」に関して肯定的回答95%、「学校の楽しさ」に関して肯定的回答88%である。 ②教育後援会役員会は年4回(4月、7月、12月、3月)開催し連携を図っている。慎重な協議のもとで予算執行、教育環境の改善に努めている。	A	①PTAと学校との連携はコロナ禍にあっても非常に良好であり、生徒と学校の懸け橋として、学校がPTAの特長を上手く引き出すことに成功している。 ②教育後援会との連携ができており教育環境の充実に向けて予算執行が適切に行われている。	A
教育活動	学習指導	【国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。】		①学習活動の充実による知識の定着と思考力の向上。 ②国際標準の学力の育成を目指すための先導的な教育を推進し、資質育成と進路実現の支援。	①②「授業の理解、学習内容、学習評価」等に対する生徒の肯定的回答80%以上を得る。大学、地域、企業、アカシア会の協力を得て、キャリア講座や職場体験代替行事を充実させ、「進路指導の充実」に関して生徒の肯定的回答80%以上を得る。	①②進路の実現に向けて学習指導を充実させている。「授業の理解、学習内容、学習評価」等に対する生徒の肯定的回答は91%であり、高い評価を得た。また、高校3年生の生徒が広島県科学賞特選、日本学生科学賞入選1等の受賞をはじめSSH課題研究で優れた評価を得た。アカシア会の絶大な協力によりキャリア講座を実施し、生徒のキャリア意識を向上させた。「進路指導の充実」に関して生徒の肯定的回答89%であった。	A	①学習指導に関する生徒の肯定的評価が9割を超えており高い満足度が得られている。SSHの推進、ESDの推進などの先導的なカリキュラムの導入により主体性のある高度な能力の育成がなされている。 ②キャリア教育について、アカシア会等の協力がなされ、進路実現へ向けた取り組みの充実が見られる。	A
	生徒指導	【国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。】		先導的なカリキュラム開発の土台として生徒への生徒指導の充実。 ①生徒会活動を通して、生徒が有意義な学校生活をおくるための支援。 ②生徒会活動、生徒指導を通じて社会的ルール遵守や規範意識の向上。	①生徒が主体的に活動する学校行事・生徒会行事の民主的な運営を支援した。3年ぶりの中高体育祭では、コロナ禍における新しいスタイルを工夫した生徒主体の企画運営を支援した。「学校行事・生徒会活動」に対する生徒の肯定的回答80%以上を得る。 ②いじめ防止委員会を毎月開催。生徒部長講話は学期に各2回実施し生徒が有意義な学校生活をおくるための支援を行った。「先生の指導」に対する生徒の肯定的回答89%以上を得る。	①生徒が主体的に活動する学校行事・生徒会行事の民主的な運営を支援した。3年ぶりの中高体育祭では、コロナ禍における新しいスタイルを工夫した生徒主体の企画運営を支援した。「学校行事・生徒会活動」に対する生徒の肯定的回答99%である。 ②いじめ防止委員会を毎月1回以上開催した。生徒部長講話は学期に各2回実施し生徒が有意義な学校生活をおくるための支援を行った。「先生の指導」に対する生徒の肯定的回答89%である。	A	①学校行事・生徒会活動に対して稀にみる高評価である。体育祭等学校行事を支援することで生徒会活動の充実を図っている。 ②いじめ防止委員会が定例開催され、生徒の実態把握と共有に取り組まれて、組織的な対応ができています。教員の指導に対する肯定的回答は高く、公平な学習指導、教員による親身な指導がなされている。	A
	保健指導	【国際標準の学力を育成するための先導的な次世代カリキュラムの開発を進める。】		先導的なカリキュラム開発の土台として生徒への保健指導の充実。 ①生徒の健全な学校生活への支援。 ②校内美化の向上と美化意識の高揚。	①②保健室から「保健だより」年3回発行等、保健指導を実施。生徒会保健委員会による「保健新聞」年2回発行の活動等を支援。学校医、スクールカウンセラーとの連携を強化し、スクールカウンセリング(SSR)は週2日実施、スペシャルサポートルーム(SSR)は週2日開設。「悩みへの相談」に対する生徒の肯定的回答80%以上を得る。	①②「保健だより」は年3回発行、「保健新聞」は年2回発行し、生徒の健全な学校生活の支援を図った。学校医、スクールカウンセラー、SSR指導員と教職員との連携を密にとり、生徒相談の充実に取り組んだ。「悩みへの相談」に対する生徒の肯定的回答96%である。	A	①②学校長による強力な方針のもと、スクールカウンセラーなど、生徒の心身の健康をサポートする整石な体制が整えられている。さまざまな事情と悩みを抱える生徒に寄り添う環境と細やかな相談活動を充実させている。	A

注) ☐ 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

令和4年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
教育実習	教育実習	【人間社会科学研究科教職開発専攻(教職大学院)及び教師教育プログラム教員等と教師教育や教員研修・教員養成のあり方について検討する。】	①大学との連携・協力の実質化に向けて、教育実習実施の具体的方策を提案。 ②教育実習生の教職に対する高い使命感の涵養。 ③教育実習生の教科指導力、授業力を育成。	①年3回の教育実習連絡協議会に参加し、大学との協議のため内2回は教育実習の成果と課題に関して意見を提出する。教育実習実施の全教科で、大学教員の訪問を受けた授業協議等を各1回以上実施する。 ②③各教育実習生が平均5回以上の授業実践、授業協議会を行い、教育実習終了後の自己評価において授業力向上等に関する肯定的評価80%以上を得る。	①年3回の教育実習連絡協議会に参加し、大学との協議のため内2回は教育実習の成果と課題に関して意見を提出した。教育実習実施の全教科で、大学教員の訪問を受けた授業協議等を各1回以上実施した。 ②③各教育実習生が平均5.5時間の授業実践と授業協議会を行い、教育実習終了後の自己評価において授業力向上等に関する肯定的評価92%であった。	A	①②教育実習生の自己評価において授業力向上に関する肯定的評価が92%と高い評価であることを評価したい。また、コロナ禍で距離感があるにもかかわらず、生徒とのふれあい、コミュニケーションから教職への高い魅力を感じていることが、満足感、達成感にあらわれている。実習生の課題を明確につかみ、大学と共有し、力を合わせて教職に対する高い使命感と生徒愛、教育への情熱にあふれた人格の育成を図ってほしい。	A	①②③先進的・先駆的な教育活動や国際標準の学力を育成を目指した教育活動を通じて、新たな学びの方法を備えた教員を養成するための指導計画を構築する。大学と連携・協力して教育実習指導の方法や評価方法について具体的な方策を提案する。教育実習生の教科指導力、授業力を育成するとともに、実習生の指導力、授業力を適切に評価し、その分析に基づく実習指導研究、実習指導計画研究を展開し、指導の改善を図る。
	研究開発 (スーパーサイエンスハイスクール)	【スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業、研究開発学校としての実践研究、大学教員と連携・協力した教育研究活動等を一層推進し、社会に開かれた科学技術を先導する人材育成の起点となる科学教育カリキュラムの開発等の成果を我が国の初等・中等、高等教育の水準を向上させるために全国に展開する。】	①SSH第4期第5年次の計画に基づいて研究開発を実施。 ②大学との協働により、高大接続プログラムを進め、AP(アドバンス・ブレイクメント)の効果を検証。 ③SSH第5期の申請に向けた構想、計画の立案と体制の構築。	①学校設定教科「SAGAs」を通年で高校全学年対象に実施し、指導・評価モデルとして成果と課題を成果発表会等で年2回以上発表。 ②広大APに高校生20名以上を参加させ、単位認定15名以上を目指す。実施の成果と課題を検証し、参加生徒の肯定的評価80%を得る。 ③SSH第5期の申請に関して大学関係者と協議会を2回以上開催。将来の自走化に向けて1以上の制度を設計。	①SSH第4期5年次として学校設定教科「SAGAs」を中核とした研究開発を進め、課題研究中間発表会、「SSHの日」等において成果報告を行った。課題研究の在り方と指導・評価方法を体系化した「広大メソッド」を開発。探究的な学習指導の指導・支援と授業改善に向けて「広大メソッド研修会」を4月と9月に他校教員を招いて2回開催した。 ②大学との協働により高大接続プログラムをすすめ、APの効果を検証している。高校生延べ63名が受講し、単位修得状況は52%(延べ33名)である。参加生徒の肯定的評価は88%であった。 ③SSH先導1期に向けた申請計画について大学と連携し、構想、計画の立案と体制の構築をすすめた。先導的なカリキュラム研究開発の推進、国際的に活躍する人材育成を支援するための将来の自走化に向けて「附属中・高等学校「友誼の御園」」基金を設立した。	A	①②SSH事業を学校全体で進めており、非常に高い成果を上げている。文系の生徒にとっても学びに対する自主性が最も良く発揮される取り組みであると評価する。生徒たちの自発的な発見や興味にもとづくテーマへの探究は、本来あるべき形であり、実践の在り方でもある。②大学との協働により高大接続・接続プログラムをすすめており、高校生が大学教養科目を受講できる広大APへの参加生徒からの評価が高い。 ③SSH海外連携校との研究交流をオンラインで計画し、従来のプログラムを継承されている。	A	①②③SSH第4期に開発した「課題研究」を中核とした科学教育プログラム、指導・評価モデルをカリキュラム・マネジメント、STEAM教育の視点から一層発展させ、広島大学等と共同・協働で国際的に通じる科学教育カリキュラムを開発する。科学を基礎科学を応用科学の相補的な関係で捉え、生徒の主体的な科学的探究を支援・促進するための実践的研究を行う。高大接続プログラムに関して広島大学によるAPをさらにすすめ、高大接続のモデルを実践的に研究し、高大接続の実質化を促進する。高校生が広大APで大学教養科目を受講できることの価値を生徒に伝えるとともに、高校での学びにつながる方法を検討する。
	中等教育研究開発	【研究開発等の成果を我が国の初等・中等・高等教育の水準を向上させるために全国に展開する。】	①10年後の学習指導要領改訂を先取りした各教科ならびに探究学習等の通教科的な教育実績を積み上げ、全国をリードする研究開発を推進。 ②教育研究大会を開催し、全国の教員に実践研究の成果を提供。	①②教育研究大会を年1回開催の他、校外向けに探究学習に関する研修会を1回以上開催する。 教育研究大会参加者アンケートにおいて、本校の実践成果に対する肯定的評価80%以上を得る。	①②教育研究大会は、参加者を限定して開催したが、98%以上の参加者が公開授業、研究発表、全体講演について参考になったと回答した。授業実践事例は学校Webページへ電子公開した。また、広島県高等学校教育研究・実践合同発表会において、「『広大メソッド』の開発を通じた科学的な探究活動」課題研究」などの深化」と題して、本校教員がSSH第4期研究開発の内容とこれまでの成果と課題について口頭発表を行った。	A	①②各教科ならびに通教科的な視点から「学び」と「探究」のつながりを意図した教育実践に取り組み、その成果を広く発信できている。感染拡大に伴い、参加者を学校の先生・教育関係者に限定した上で実施されており、主題に沿った授業の展開と協議を行い成果をあげていく。	A	①②複数年度にわたる教育研究テーマを設定し、教育研究大会での公開授業や研究発表等を通じて、10年後の学習指導要領改訂を先取りした各教科ならびに探究学習等の通教科的な教育研究実績を積み上げ、全国をリードする研究開発を推進する。教育研究大会を開催し、全国の教員に実践研究の成果を提供する。
	学部・附属学校共同研究	【学部・研究科等と連携し先導的な教育モデルを開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上を目指す。】	①学部・研究科等と連携し、大学と共同で研究プロジェクトに参加し、研究成果を発信。	①本校教員が代表の研究プロジェクトを1件以上新規に応募し、採択を目指す。昨年度から継続中の全プロジェクトは研究成果を研究紀要に発表する。	本校教員が代表となっているプロジェクトが新規に3件採択され、研究の中心となって共同研究プロジェクトを展開している。昨年から継続の2件について、研究成果は、大学が発信する電子ジャーナルでの発表および学会での発表を予定している。	A	大学、他附属学校園の教員との連携により、先進的な教育研究開発の実践が積極的にすすめられている。	A	①広島大学、附属学校間との先進的な教育研究開発プロジェクトをすすめ、その成果発表を推進する。
グローバル教育推進	グローバリゼーション教育	【国際標準の学力を育成するための先進的な次世代カリキュラムの開発を進める。】	①ユネスコ・スクールに係る教育活動を軸に、国内外の機関と連携をして、ユネスコ活動を行う生徒会、班活動を支援。 ②SSH、SDGsに関わる教育を研究・推進し、持続可能な社会を先導するためのカリキュラム開発を推進。	①ユネスコ協会関係等の対外行事に生徒10名以上が参加。ユネスコ・スクールとしての活動報告を文部科学省等に提出し、定期レビュー等で適切な評価を受ける。 ②学校設定教科、総合的な学習の時間を中心に実施するSSH、SDGsに関わる教育活動の成果と課題をホームページ等で年1回以上発信。生徒アンケートにおいて80%以上の肯定的評価を得る。	①各学年の特別活動や生徒会活動においてユネスコ教育を推進した。広島ユネスコ協会「平和の鐘を鳴らそう2022」の集いへ11名が参加。代表として「平和のスピーチ」を生徒1名が日本語で行い、生徒1名が英語でスピーチした。また、ユネスコ班活動の成果は第2回広島SDGsコンソーシアム研修会において実践報告を行った。第8回広島県ユネスコESD×SDGs大賞において、本校教員が個人(学校)部門で大賞を受賞した。令和4年度ユネスコ・スクール定期レビューにおいて本校の活動が生徒主体の活動の在り方として一つのモデル事例となっていることや顕著な成果を上げていることについて高く評価された。 ②SSH等に関わる教育活動について肯定的評価は95%であった。	A	①②経験豊かな教員による確かな指導のもと、生徒が平和活動においてグローバルな活躍をしていることを高く評価したい。多様性社会に適応するグローバル人材の育成に欠かせないコミュニケーション能力の向上を意図した指導に寄与していくことに期待する。	A	①ユネスコスクールに係る活動、SDGs活動をさらに推進し、本校におけるグローバル化に対応した教育の思想及び構造を策定し、成果を発信する。ユネスコ委員会やユネスコ班、個人での活動も引き続き支援し、ユネスコ・スクールとしての学校での研究実践も行う。 ②グローバル・コンピテンシーの育成を進めるため、海外連携プロジェクトの具体的方策を精査する。
	国際交流	【国際標準の学力を育成するための先進的な次世代カリキュラムの開発を進める。】	①教職員、生徒の海外学校との交流事業計画を策定し、グローバルマインドの高揚を図り、成果を発信。	①海外の学校との交流プログラム(オンラインを含む)を年3回以上実施し、参加生徒のアンケートにおいて、グローバルマインドの高揚に関して80%以上、学校全体の国際交流に対して60%以上の肯定的評価を得る。	①韓国やタイ王国等のSSH海外連携校との研究交流は、オンラインの形態で8回交流プログラムを実施できており、従来のプログラムを継承している。今年度も学校主催海外研修は中止し、SSH事業の海外研修、訪日研修も取り止めたことが影響していると思われるが、学校全体の国際交流に対して肯定的評価は55%であり、今後は対面(訪問)とオンラインの併用を検討し、改善を図りたい。	C	①オンラインでは実施したが実際の交流の必要性を感じている。「国際的である」活動を実感できなかった生徒が多く、肯定的評価が目標に到達していないが、数値の達成より実質的な中身を評価したい。海外連携校との課題研究の交流は、オンライン形態でプログラムを実施し、研究成果の発表と議論という高度な活動を実現したことからB評価でもよいと考ええる。	B	①国際的に通用する科学教育カリキュラムに発展させる。海外連携校と課題研究を評価するルーブリックを共有する。海外連携事業を通して、研究開発の課題を共有し、広島大学と共同・協働でアジア科学教育コンソーシアムの組織づくりを行う。

注) ☐太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。